

とくしまの学校における働き方改革プラン 概要版

すべての教職員が健康で生き生きと働くことができるよう、新たな取組指針として、このプランを作成いたしました。県・市町村教育委員会・学校との三者で連携し、推進してまいります。

目的

業務の適正化と質的転換による
教育力の向上と持続可能な学校づくり

目標

全県での時間外勤務の縮減目標を2020年度で25%減と設定し、5つの柱のもと教育委員会と学校で計画的に取り組みます。

月当たりの時間外勤務の目標

25%減（平成29年度比）

2018
(H30)

2019
(H31)

2020 (25%減)
(H32)

推進のための5つの柱

- ① 勤務時間の管理と意識改革
- ② 業務改善の推進
- ③ 外部人材等の活用
- ④ 部活動の適正化
- ⑤ 保護者・地域への理解促進

5つの柱に取り組むことにより、限られた時間のなかで児童生徒に対して効果的な指導を行うことができるよう、教育活動の質的な転換を目指します。

それにより、時代のニーズに対応した、質の高い教育を持続的に行うことのできる学校づくりを推進していきます。

県教育委員会

取組のイメージ

カエルボードによる
勤務時間を意識した働き方



スクール・サポート
・スタッフの配置
地域学校協働
活動の推進

勤務時間管理
と意識改革

3つの主体が
一体となり、

外部人材等の
活用

5つの柱に重点的
に取り組みます

ホームページによる
情報発信
QRコードはこちら



プランは
こちらから
ご覧いただけ
ます。



職場環境の改善による
コミュニケーションの促進



部活動指導員の配置

部活動の
適正化

保護者・地域
への理解促進

市町村教育委員会

学校

- ①管理職への働き方に関する意識改革の推進とマネジメント研修の充実
- ②学校における優れた業務改善事例の周知・広報
- ③県下統一した小中学校統合型校務支援システムの導入
- ④スクール・サポート・スタッフの配置促進
- ⑤運動部・文化部活動に関する方針の策定と推進 など



本年度、業務改善に集中的に取り組む重点モデル地域・モデル校を設定し、指定された地域・学校での取組が推進されるよう努めています。

市町村教育委員会の主な取組例

管内小中学校の足並みを揃え、地域をあげた取組を推進

- ①市町村での時間管理の取り決め（退校時刻・学校閉庁日等）
- ②給食費等の公会計化の推進
- ③留守番電話の導入
- ④地域人材バンクの整備と運用
- ⑤市町村内の学校すべての統一した「ノー部活動デー」の設定 など



重点モデル地域では勤務態様による勤務時間の割振りを行うなど、勤務時間の縮減や休暇取得の促進に努めています。

学校の主な取組例

学校での取組例を示しています。

取組の柱① 勤務時間の管理と意識改革

- ①管理職による勤務時間の客観的な把握
- ②会議や研修、部活動のない日を校内で設定
- ③最終退校時刻の設定
- ④外部講師を招いた研修会の開催



モデル校では、タイムカードを活用し、勤務時間の把握を行っています。



タイムカードによる出退勤管理

取組の柱② 業務改善の推進

- ①会議の精選や会議時間の短縮
- ②学校行事等の精選・見直し
- ③教材の共有化や業務内容のマニュアル化・データ化
- ④共有物品・書類等の「集中化」と「見える化」 など

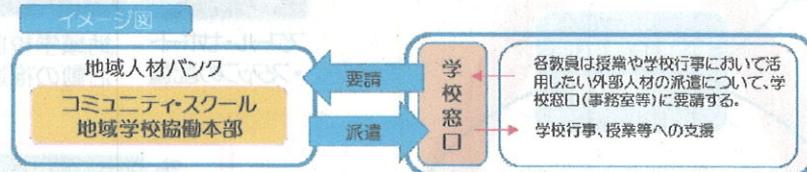
モデル校では、会議に時間制限を設けるなど、会議の効率化に努めています。



職員室の環境改善による協働意識の醸成

取組の柱③ 外部人材等の活用

- ①外部人材の受入に係る窓口の一元化と広報



重点モデル地域では、事務職員が中心となって、外部人材の派遣に関する業務を行っています。

- ②スクールカウンセラー等、専門家との一層の連携

取組の柱④ 部活動の適正化

- ①方針の作成
- ②休養日の設定や計画的な活動時間の徹底
- ③複数顧問体制の確立
- ④将来を見据えた部活動の在り方の見直し



放課後の学習支援



モデル校では、方針や練習スケジュールを作成し、ホームページ上で公開することで、学校全体で部活動を運営する体制をつくっています。

取組の柱⑤ 保護者・地域への理解促進

- ①保護者・地域に向けた啓発の推進
- ②学校評価への明確な位置付け



※本プランは、小・中・高校・特別支援学校・市町村教育委員会の教職員等で構成する「学校における働き方改革推進チーム」での意見を踏まえ、策定しています。